

文 芸

俳 句

影揺らし電車の通る植田かな

池田 逸子

とほくから総に近づく人梅かな

伊藤 敬子

一輪のアヤメ机上に農日記

伊藤 定男

初穫りの胡瓜味噌つけもう一献

今関満喜子

初摘みの苺一粒分けて食ふ

魚地 照子

二の腕の弛み氣にして更衣

川島 通則

勾玉の色に蚕豆茹で上がる

向後 寛

黄あやめや登校児童一列に

越川せつ子

青蛙草のベツトに昼寝する

小松 藤男

角取れた鰯夫が作る鰯なます

佐瀬 輝夫

藤棚の主のもてなし藤褒めて

椎名万里子

水面にて幸福そうなアヤメかな

鈴木とし子

あやめ咲く仲間になれぬ赤い色

鈴木 利子

初燕どこからも風の透る駅

玉虫 栗扇

細道を覆う紫あやめ園

土屋美枝子

ふくよかな葉に触れてみる花あやめ

土屋 義昭

小野川のさあざあ橋や夏の川

戸村 静華

惚けたらどうなることや葱坊主

早川 勇

残されてをりし代田に人の影

藤田 雅夫

短 歌

さまざまな電波飛び交う大空に
変ることなき鶯の声

高梨 キヨ

笛太鼓客寄せびびく朝市の

勝浦漁港にぎわふ人々

内藤 くに

農政の貧困言わずいそいそと

越川 義則

田水見回る老いの一徹

.....

一重なる白薔薇はらり散りゆける

花びら濡らし細き雨降る

八角 三枝

雨後を東へ流るる白雲は

はやも日射しを連れて来るなり

鈴木まこと

文明の極みを思ふこの頃に
夜半を止まざる風の音聞く

押尾 輝子

蛇毒の赤く熟れたるつづら実

毒にあらずも手触るるを忘む

青木 秀子

近く行く川船に視線合はすなき

青鷺一羽遠くを見ぬる

西山満里子

八方池に雪溪映るを眺めたり

登はんせし来し苦勞忘れて

田崎 尚美

亡き姑の誕生記念に植えし桐

花は五月の空に耀ふ

浅野 榮子

嫁ぐ娘と語り歩みしアカシアの

道に今年も花の咲あつ

芹川 初子

ひさ久に会ひし友らの変はるるに

幼き頃の面影はなし

椎名美枝子

散歩する野道に咲けるたんぽぽ

白話め草は愛でて楽しき

平山 芳子

去年の巢を二羽の燕は今日もまた

出入り忙しくなして繕ふ

加瀬 弘子

組みあつてゐる手より鼓動の伝はりて

生きよ生きよと励ましくくるる

斉藤つね子

こうほう
博物館 64

名もない仏像

町内には、平安時代終わりから鎌倉時代に作られた県指定文化財、町指定文化財の仏像が五件あるが、文化財指定を受けているもの以外にも古い仏像が多くあり、中にはただ木を彫っただけの素朴なものもある。

は省略されており、素人が作ったのではないかと思つてしまふ。しかし、目には見据えたようにしっかりと彫られてあり、江戸時代に各地を放浪しながら十万余体の仏像を彫った円空の作風にも通じるものを感じる。

左の写真は、市野原馬頭観音堂の祠の中に安置されていた聖観音立像である。直径十センチほどの太さの木から彫り出した、一木造りて、彩色や漆箔がまったく施されていない、素地の仏像である。彫り出しも、頭髮や衣のひだなどの文様

7月21日まで町民ギャラリーにて開催中の「浄土への招待 横芝光町の仏像展」では、約五十点の仏像・仏画を展示しています。ぜひご覧になって、自分の好きな仏像を見つけてみてください。



市野原馬頭観音堂の聖観音立像